

# 高齢者見守り・声かけ訓練 in 東地区

## 認知症の方を見守りましょう

### インタビュー

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、地域の見守りが大切です。認知症によって「自宅がわからなくなった」「道に迷った」ということがあります。地域住民が参加し、認知症の方への声かけを訓練する「高齢者見守り声かけ訓練」は、認知症の方が行方不明になるのを防ぐために市内で開催されています。今回は東地区で行われた声かけ訓練にお伺いしました。

声かけ訓練の様子



**東地区住民自治協議会  
会長 松井 彰さん**

以前は地域の高齢者同士で交流が盛んにありましたが、現在は少なくなってしまうしました。そのため、日頃からの声かけがより一層大切になってきていると思います。最初から認知症と疑わずに、高齢者の方が一人で歩いているのを見かけたら「こんにちは」「良い天気ですね」などと声をかけてみてください。様子がおかしいと感じ、警察に連絡して保護に

繋がったこともあります。今回のような「高齢者見守り声かけ訓練」がもっと様々な場所で開催され、訓練経験者が地域に増えることを期待しています。

**第四地域包括支援センター  
管理者 秦 智浩さん**

東地区で開催したこの訓練は今年で5回目です。毎年、お店や住宅等の訓練ポイントを設置し、認知症の高齢者役の方を決めて声かけ訓練をします。訓練は、地域の皆さんに認知症について理解していただき、認知症を自分の事のように考えてもらう機会にもなっています。

高齢者に不自然な様子がみられたら、驚かせないように声をかけることを知ること、いざという時の備えになります。訓練を重ねてきたことで、参加者の皆

### 参加者の声

さんからは訓練の方法について具体的なご意見をいただくようになりました。今後参加者の皆さんのご意見を取り入れながら有意義な訓練を続けていきます。

●認知症の高齢者の方に色々な話を聞こうとしましたが、会話のつじつまが合わないなど話を聞くことの難しさを感じました。

●普段から高齢の方が困っていたら声をかけることを意識していますが、その時も高齢の方から目を離すのが不安だったので、しばらく見守ってから、声をかけました。知らない人に声をかけることは慣れていないと躊躇すると思いますが、行方不明の方を早く保護するためには大切なことだと思います。